

外国人に日本語を教えるボランティア団体

Tachikawa International Friendship Association

えんがわサロン 多文化交流イベント 世界の家庭料理～コロンビア編

2023年12月22日（金）柴崎学習館2階調理室において、立川市生涯学習推進センターとTIFA えんがわサロンとの共催でコロンビア料理教室が開催されました。市民とえんがわサロンメンバーが協力してコロンビア料理を作り交流を行いました。講師はコロンビア出身の小澤マリリンさんが務め、26名の方々が参加しました。

参加者 日本人市民9名、TIFA ボランティア3名、市・学習館職員4名
外国ルーツ市民9名（コロンビア、ロシア、米国、フィリピン、ブラジル、韓国、スペイン語通訳）
料理名：①アロス・コン・ポヨ（鶏の炊き込みご飯） ②エンサラダ・デ・レモラチャ（ピーツのサラダ）
③チョコレート ④コンソメスープ

教室では、コロンビア料理4品を作り試食を行いました。講師よりコロンビアの国や挨拶など言葉の紹介があり、食事の間にはBGMで講師とダンスをする参加者もいました。スペイン語に興味のある参加者は、講師のマリリンさんと会話を楽しんでいました。



参加者から次のような感想が寄せられ、講座の内容・講師・時間に「良かった」との評価を数多く頂きました。次回開催に期待される声も頂き、多文化共生のはじめの一歩になることを実感できて、大きな励みとなりました。

- *楽しかった。役に立った。このような外国料理教室にまた参加したい。
- *初めてのコロンビア料理、楽しく美味しく食べた。踊りも良かった。
- *具たくさんのピラフ、スープ、サラダなどとても美味しかった。塩、胡椒の味付けがベースで、それほどスパイシーではなかったので好みに合った。明るいマリリンさん、素敵なお方ですね。
- *コロンビアの文化が楽しめて良かった。色んな国の方と交流ができて楽しかった。
- *料理の手順など間違えたこともあったが、みんなで美味しく食べられコロンビアの話も聞けて良かった。



リレーコラム 交差点

西砂教室 佐藤 嶺

日本語講師にできること

私は TIFA の活動をしながら日本語学校の講師として働いています。日本語学校に通う生徒にとって学校は、卒業後の進学や就職を念頭に置いた、人生の通過点に過ぎません。



台湾 中正記念堂

しかし、ボランティアを頼る学習者は働いている方が多く、まさにいま日本語でのコミュニケーションの上達を望む切実な動機を抱えています。いかに週 1 回 90 分の授業の中で、生徒のためになる授業を行えるか、試行錯誤を繰り返します。

日本政府は、在留資格「特定技能」の外国人労働者を今後 5 年間で 82 万人受け入れる方針を出しました。存在感を増す隣人との向き合い方をますます問われるでしょう。

私は 2023 年に台湾へ旅行に行きました。旅先で出会う人々は、みなフレンドリーでした。今日の両国の友好関係も先人たちの努力のおかげです。台北、九份、旅行は楽しい思い出です。

一方で、芝山巖を訪れました。山と寺の閑静な場所ですが、統治時代に日本人教師が抗日事件で犠牲になったところでした。ときに国同士の関係は政治次第で簡単に左右されてしまいます。だからこそ、市民の一人ひとりが異文化に関心を持つ意義は大きいはずで

私は自分にできること。つまり、いま日本語を必要とする人に寄り添いたいと思いました。

木曜教室 田中 鈴子

国と国の狭間で生きる子ども達へ

私は TIFA の活動の他に、毎週水曜日午後立川子ども日本語教室「つばさ」の運営を通して、海外ルーツの子ども達への日本語支援を行っています。



私自身、子ども時代に日本、ブラジル、米国で生活した経験のある「移動する子ども」でした。大変ではありましたが、その都度、その国の言葉を覚えて生活したことは、自分の糧となっています。ただ、親の都合で否応なく連れて行かれるのが子どもです。今振り返れば良かったと思えることでも、自分の意思で選んだ道ではなく、辛いこともありました。

日本で暮らしている、海外につながりのある子ども達もそうです。「つばさ」は、そんな子ども達に、日本語を学習する機会を増やすこと、そして、安心できる場所を提供することを目的としています。日本語を母語としない子ども達が日本語を自由に使えるようになることは、将来的に日本で生活を築いていく中で、自由を獲得するための条件になります。そして、学校では居場所がなかったり、勉強についていけなかったりする子ども達が、「自分は、ここでは受け入れられている。自分の話を聞いて、助けてくれる大人がいる」と、安心していられる場所があることも、彼らの健全な成長にとって大切だと感じています。

そんな「つばさ」にご興味ある方は、ぜひお声かけください。

土曜教室 的場 正道

香港 忘れられない一日

今から 45 年程前、初めての海外転勤で香港へ赴任し、その 3 か月後家族を呼び寄せました。妻と幼い子ども二人が香港啓徳空港に到着、フラット（マンション）に荷物を置いてすぐ、最大の繁華街、銅鑼灣（コーズウェイベイ）に買い物に出かけました。



フラットはアンファーマニシュト（家具なし）の部屋だったので、電化製品、家具などの必需品は自分で揃えなければなりません。電車通りに面した商店街は、ものすごい人出で溢れかえっていました。

ところが、私が電気店に入ろうとしたとき、妻と子どもが見当たりません。当時は「店の中に一旦入ったら姿が消えてしまう人もいる」などと、まことしやかに囁かれているほど治安の悪い状況だったので。もちろん携帯電話はない時代です。人さらいに連れ去られたのではないかと店の前を右往左往、動揺しました。



私には一瞬の出来事のように感じられましたが、妻によると実際は 1 時間以上も経っていたようです。ようやく別の店の入口近くで不安そうに立ちつくす 3 人を発見しました。なんと、妻は店の中で言葉も話せずに、店員にじろじろ見られながら、緊張で動けずいたので。最後には顔を見合わせ抱き合い、笑顔に戻ってたくさんの買い物を済ませることができました。

心臓が飛び出しそうな思いをした新生活のスタートでしたが、以後帰国までの 7 年間、事故に遭遇することもなく、自由な香港生活を送ることができました。

2024年度 開講の様子

木曜教室 [在籍：講師 21名 受講生 29名]

4月4日(木)、開講式が赤嶺副会長の司会の下、開催されました。立川市市民協働課の福邊課長及び早野係長がご出席され、日本語教室の活動実績や今後への期待についてご挨拶されました。TIFA 出席者は木下会長、講師 18名、受講生 22名でした。



昨今の世界の状況は、平和な国、紛争が続く国や地域など様々です。20余か国出身の受講生はそれぞれに背景を有していますが、私達は相互理解と共生を念頭に、どの受講者にも分け隔てなく、日本の言葉や文化の理解を深められるよう心がけて授業を進めていきたいと思えます。(柏田教室部長)

土曜教室 [在籍：講師 22名 受講生 35名]

4月6日(土)、申込者が殺到し受付係が対応している最中、開講式を行いました。教室部からは日本語上達の秘訣を伝えました。次の3点です。



- ①「あいさつ」を交わしましょう。
- ②覚えた日本語は臆せず「使って」みましょう。
- ③「元気で」通い「続け」ましょう。

そして大切なマナーがあります。「休みます」「退会します」を担当のボランティアに伝えましょう。

ある受講生は「会社でも同じ。後輩にも教えている。とても大事」と話してくれました。(佐藤教室部長)

西砂教室 [在籍：講師 17名 受講生 33名]

4月13日(土)、授業30分前になると、新規受講生がドットと押し寄せて来ました。最近多いのは、一方が日本人配偶者に連れられて来る外国籍の受講生(親子、夫)です。ほほえましくもあり同時に責任も感じています。



昨年12月1日、出入国在留管理庁永住許可に関するガイドラインが改訂になり、特定技能2号資格者の対象就労可能業種が2つから11種に増えました。当然日本語教室への受講が増える要素でもあり、ボランティア講師の増員が益々切望されます。(岡田代表)

木曜教室 スピーチ会

3月14日(木)作業室にてスピーチ会を開催しました。受講生14名、ボランティア17名、計31名が参加し、受講生10名がそれぞれのレベルで内容を工夫し、スピーチしました。



発表者の習慣や文化がそれぞれ違うので、スピーチを聞くたびに日本について改めて考えさせられました。

受講生が疑問に思った言葉として「緑」が紹介されました。「信号の色は緑なのに青と呼ばれます。昔の日本では緑も青と呼んでいました」という話がありましたが、中には知らない人もいて勉強になりました。

【注釈】日本では古くから青の概念のなかに緑を含んでおり、青葉とは緑色の葉のこと。平安時代から現代まで青と表記して緑色をさしているケースは多い。

(出典：講談社 色名がわかる辞典)



なお、発表した受講生と今年度の出席率が高かった受講生に豪華賞品(?)が渡され終了しました。

西砂教室 ミニ発表会・懇親会

3月16日(土)西砂学習館で「ミニ発表会&懇親会」が行われました。参加者数は学習者24人、ボランティアが13人で計37人でした。



参加受講生は教室に通い始めてから一年以内の人が多く、国籍はネパール、インドネシア、中国、ベトナム、米国、ニュージーランド、オーストラリア等でした。

職業は近隣の会社で働いている人、日本人の配偶者、家族帯同、学生等様々で、普段はオンライン学習のみの人たちも参加して、にぎやかな会となりました。

発表話題は自己紹介、お国自慢、課外活動の様子、旅行など多岐にわたりました。なかでも面白かったのは一人の若い男性の話で、ある休日の話でした。

駅、建物、線路、市役所などが描かれた一枚のスライドを見せながら、家からどのように行ったか、行った目的、そこで何をしたかなどを淡々と説明するものでした。特に珍しい話ではありませんでしたが、カード



登録をしたなど興味を引く部分もあって全員がうなずきながら話に聞き入り、自然に拍手がわきました。

土曜教室 ひな祭り

3月2日(土)柴崎学習館作業室と第一教室において、ボランティア20名、



四人家族

受講生21名が参加し、ひな祭り行事が行われました。

まず、折り紙を使って箸置きを模したお雛様を組み立てました。男雛と女雛を作り、顔を描き入れて完成しました。制作者毎に個性のある可愛らしさでした。

次に、福笑いゲームをやりました。目隠しをしてお雛様ののっぺらぼうの顔に、目・眉・鼻・口などを置いていきました。出来上がりの顔のおもしろさに歓声上がり、ポーズをとって写真を撮ったり、交代で挑戦して楽しみました。最後に、ひな祭りの歌を練習してみんなで合唱しました。お土産は「雛あられ風キャラメルコーン」で時代の移り変わりを感じました。



土曜教室 節分 豆まき



2月3日(土)柴崎学習館作業室と第一教室で節分の行事が行われました。授業の真っ最中に、突然赤鬼が乱入、大暴れ

するかと思いきや愛嬌を振りまき、写真を一緒に撮るなど和やかな雰囲気でのまりました。

鬼の絵の標的に豆を投げつけ、小さな鬼に命中すれば、特別景品(?)が当たるという「鬼の的当てゲーム」も行われました。命中すると歓声上がり、拍手喝采で大にぎわいでした。



次期役員 改選のお知らせ

2024年3月30日の運営委員会において、次の方々が役員候補者として承認されました。5月25日の定期総会の議決を経て正式に選任されます。

会長：小林保 副会長：赤嶺令子 牛島芳
 会計監査：波多野進 山田さち子
 企画渉外部長：葛敦 広報部長：宇佐美浩
 会計部長：前田真希 事務局長：後藤篤史
 教室部長：[木曜教室] 富田康予 [土曜教室] 所陽子
 [西砂教室] 岡田良雄

教室参加者 2023 年度実績

2023 年度 講師・受講生 延べ人数実績 単位：人

	講師	受講生	合計
木曜教室	783	655	1,438
土曜教室	808	802	1,610
西砂教室	571	557	1,128
3 教室合計	2,162	2,014	4,176
(2022 年度)	(1,969)	(1,507)	(3,476)

2023 年度 国籍別受講生 延べ人数実績 単位：人

	延べ人数	国籍	延べ人数
中国	732	ネパール	78
ベトナム	276	ギニア	71
アメリカ	151	香港	70
フィリピン	137	インドネシア	66
台湾	116	その他	219
日本	98	合計 28 か国	2,014

(2022 年度合計：26 か国 1,507 人)

News 立川市外国人住民の人口

2024 年 1 月 1 日 国籍別 単位：人

()内は 2023 年 1 月 1 日

国籍	2024 年 1 月 1 日	国籍	2023 年 1 月 1 日
中国	2,204 (2,100)	インドネシア	160 (138)
韓国	744 (727)	台湾	126 (126)
ベトナム	582 (508)	ミャンマー	100 (59)
フィリピン	415 (398)	朝鮮	86 (93)
ネパール	277 (268)	その他	604 (548)
米国	166 (159)	総数	5,464 (5,124)

*立川市総人口：185,825 人 (185,483 人)

外国人比率：2.94% (2.76%)

()内は 2023 年 1 月 1 日

*参考：2014 年の外国人人数 3,197 人

立川国際友好協会

西砂教室

